

## 令和5年度峯ヶ塚古墳発掘調査の概要について

●古墳の概要) 峯ヶ塚古墳は、**5世紀末に築かれた墳丘長96mを測る二段築成の前方後円墳**。1991～92年の調査で**後円部中央にて石室が検出され、多数の副葬品が出土**した。

墳丘形状の確認を発掘調査等により順次行っているが、墳丘北側の造出しに関してはその形状や墳丘本体への取り付けの状況を把握するために、2019～2022年にかけて発掘調査を実施した。これらの調査で後円部と前方部の接続箇所から前方部側面にかけて、**約20mを測る長大な造出し**が取り付けことが確認できた。

●今回調査の概要) 既往の調査で造出しの平面的な規模が把握できたので、今回は**墳丘本体への立面的な取り付けの状況を確認するために発掘調査**を行った。発掘調査区は、2箇所設定した。1つは北側クビレ部において南北方向に長さ9m、幅0.6mの規模で設定した(第1調査区)。もう一方の調査区は北側前方部側面に南北方向に長さ4.5m、幅0.9mの規模で設定した(第2調査区)。

第1調査区に関しては、墳丘斜面途中に設けられる**段築の平坦面を検出**した。この箇所では、円筒埴輪の底部が倒れ込んだ状況で出土し、調査区壁面の観察から円筒埴輪底部が列をなしている様相を把握した。よって、この箇所に**円筒埴輪列を伴う平坦面**の存在することが分かった。また、墳丘下段斜面において原位置を留めていると考えられる人頭大の葺石も検出された。

第2調査区は、墳丘盛土の堆積状況を調査区壁面の土層断面の観察を行い、**墳丘盛土上面が平坦になる箇所を検出**した。この平坦部分が、**造出し上面の遺存状況を反映**しているものと考えられる。

今回調査の成果をもって造出しや墳丘段築の状況の把握ができたので、今後墳丘復元を検討するときの有力な情報を入手することができた。

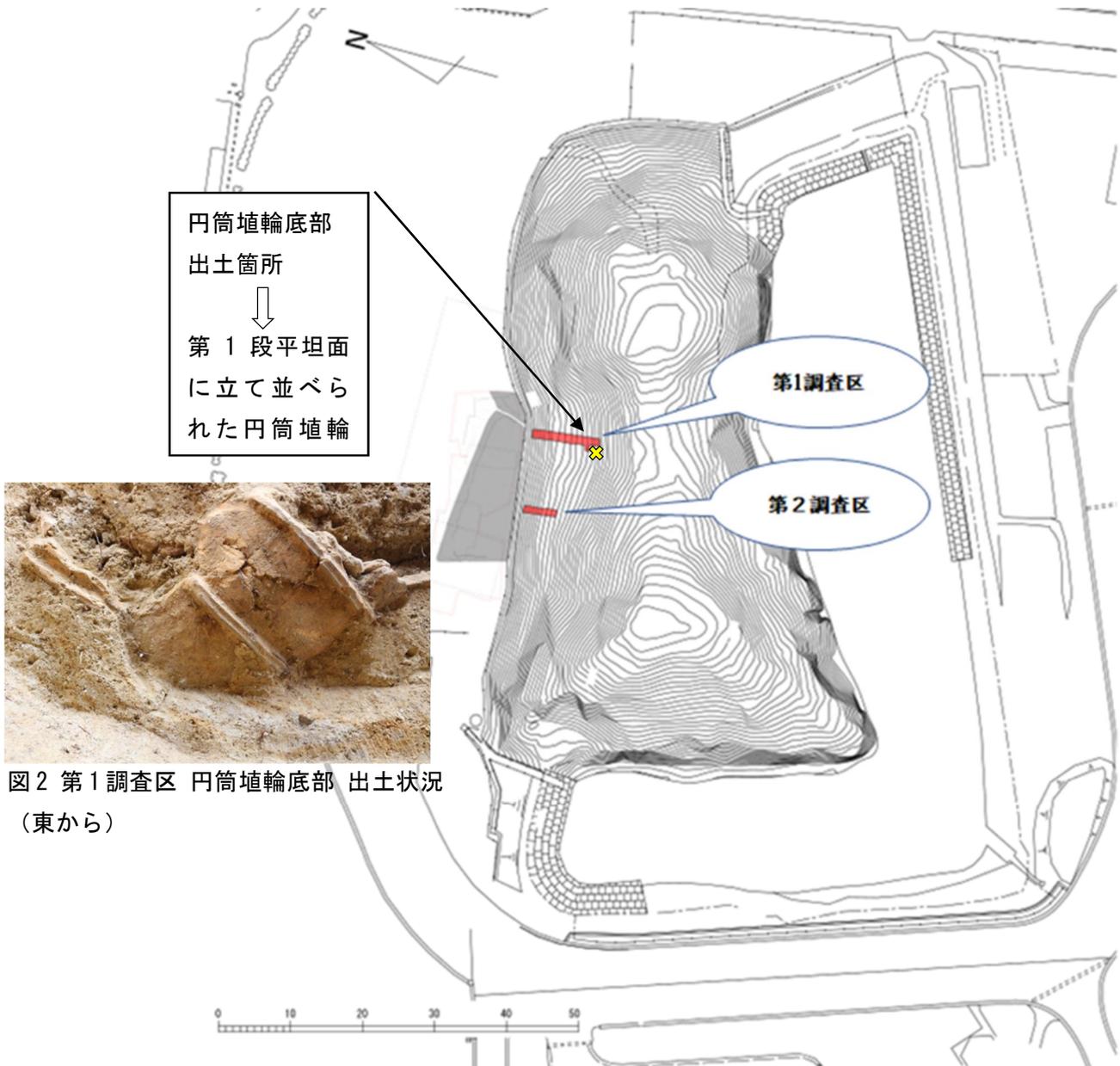


図2 第1調査区 円筒埴輪底部 出土状況  
(東から)

図1 調査区配置図

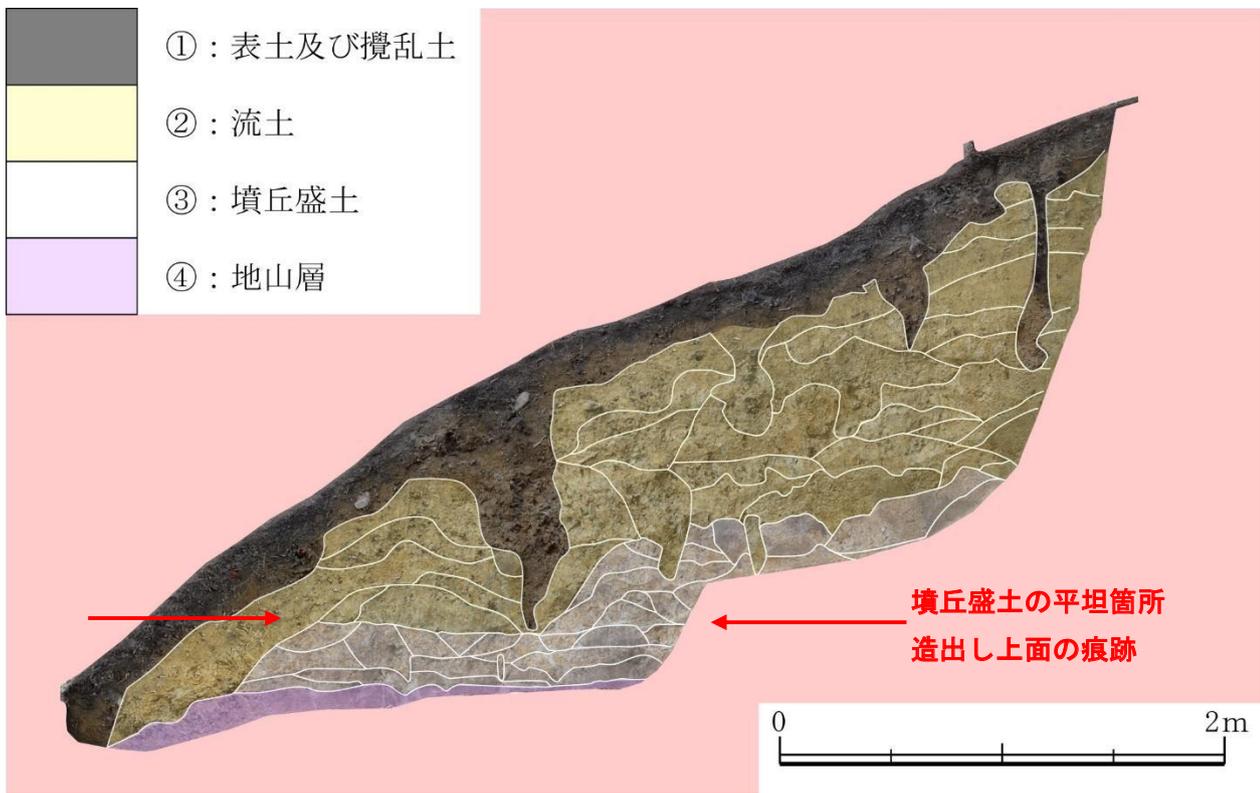


図3 第2調査区 調査区東壁土層断面図

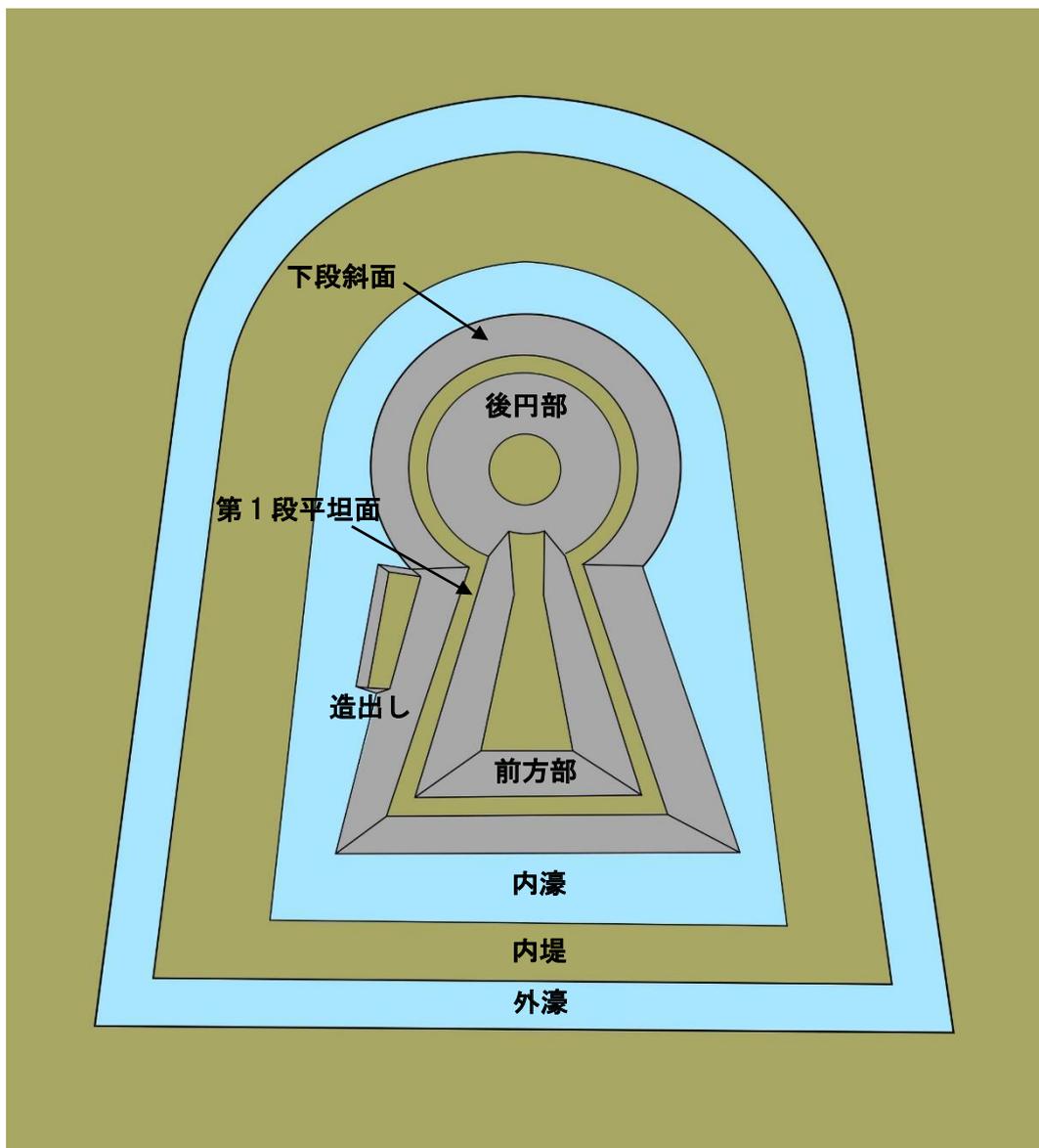


図4 峯ヶ塚古墳 復元模式図

## 令和5年度 唐櫃山古墳の調査成果（藤井寺市）

### 1. 唐櫃山古墳と過去の調査

唐櫃山古墳は藤井寺市の北東部に位置する全長59mの帆立貝形前方後円墳である。允恭天皇陵（市野山）古墳の後円部側堤に取り付くように築造された。

令和2年度から史跡整備のための調査を実施しており、調査によって允恭天皇陵（市野山）古墳の内堤に取り付くこと、堤上には礫が敷かれていた可能性が高いことのほか、唐櫃山古墳の周濠は墳丘に沿う形状である馬蹄状を呈することや、付属施設が存在することが明らかになった。

### 2. 令和5年度の調査（まとめ）

今年度は前回の調査で確認できなかった付属施設の性格を明らかにすること、今まで確認できていなかったくびれ部を確認するために2ヶ所の調査区を設定し、調査を実施した。

結果、付属施設は堤へと繋がることから、渡り土手であることが判明した。ほか、くびれ部の確認調査区では後円部上段の葺石、後円部テラスの埴輪列、前方部埴輪列を確認した。前方部埴輪列の存在から、従来想定されていた前方部の幅が広がることが明らかとなった。

### 3. 今後

復元及び整備にあたり、後円部頂の埋葬施設の痕跡が遺存しているかどうかを確認するために調査を実施したい。調査時期は9～10月ごろ、調査の規模は6㎡を予定している。



1 トレンチ西より

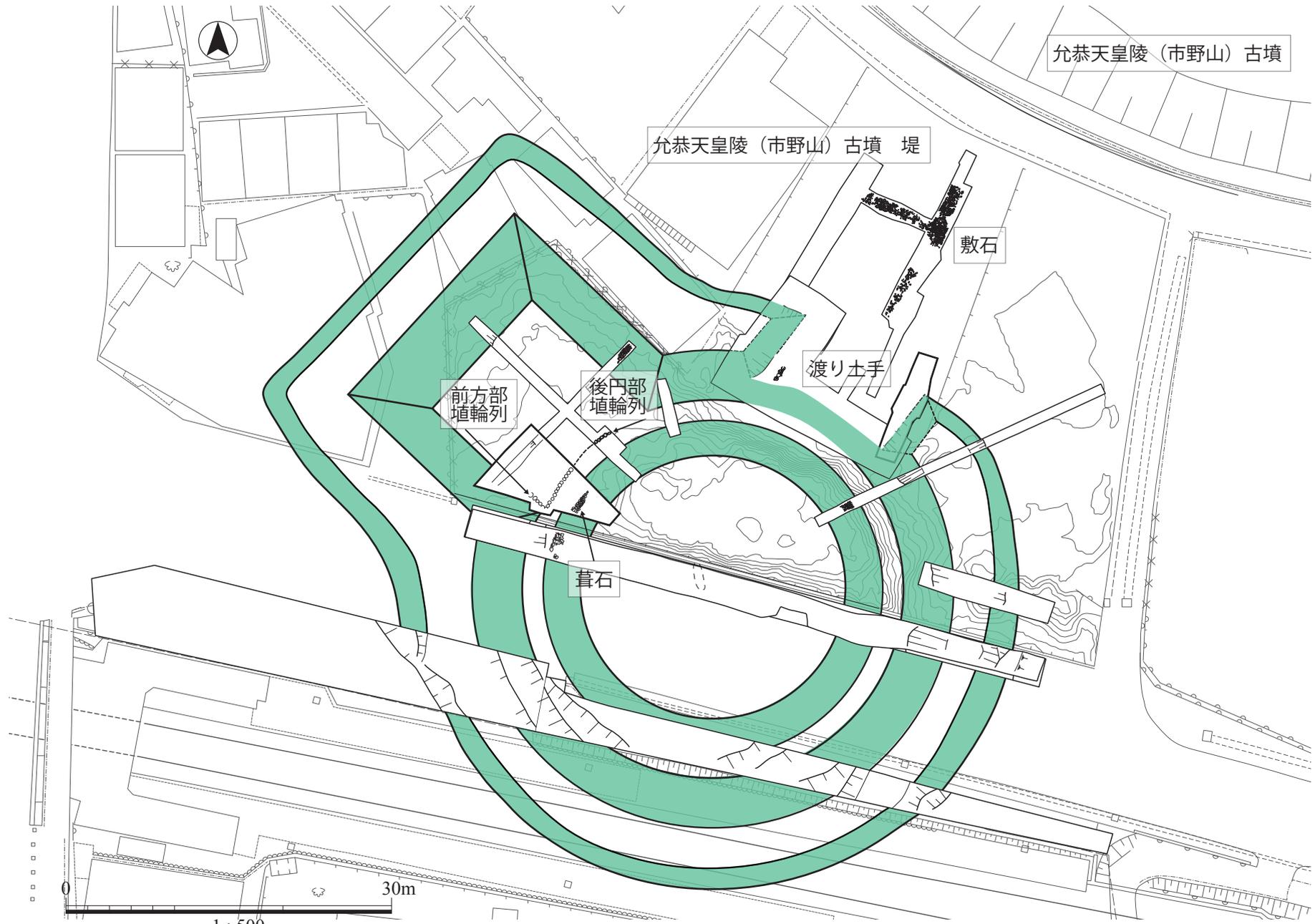


図 唐櫃山古墳 調査区と墳丘復元図